



令和6年8月26日  
一般社団法人日本地質学会

## 日本地質学会第131年学術大会（2024山形）

発表形態：資料配布（8月26日）

発表先：文部科学省記者会、山形県政記者クラブ、科学新聞社

概要：

- 1) 学術大会のご案内（資料1）
- 2) 表彰
- 3) 行事のご案内
  - ・シンポジウム：能登半島地震とそれによる自然災害の地球科学的理解を目指して
  - ・市民講演会「樹氷と出羽三山を知る」
  - ・地質情報展2024 やまがたー山と盆地をつくる大地のヒミツー
  - ・第22回日本地質学会ジュニアセッション
  - ・学生のための地質系業界説明会～その業界の仕事を知るためのサポートサービス～
  - ・山形城と石材見学会
- 4) ハイライト講演
- 5) 新たに採択された地質遺産説明会

内容：

### 1) 日本地質学会第131年学術大会（2024山形大会）を開催

開催日： 研究発表： 9月4日（日）～6日（火）

会場： 山形大学小白川キャンパス（山形市小白川町）

プログラム：<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/geosocjp131/content/program>

上記URLより発表プログラム等を閲覧できます。学術大会を取材希望の方は、事前（学会事務局）、もしくは当日（会場受付）申し出て下さい。

### 2) 表彰

一般社団法人日本地質学会では地質学に関する優秀な研究業績を修めた方や地質学の発展・普及による社会貢献の著しい方を顕彰しています。2024年度の各賞受賞者は14件で、学術大会で受賞記念スピーチを行う受賞者は次の方々です。

### 都城秋穂賞

受賞者：Gregory F. Moore 氏 (Dept. of Earth Sciences, University of Hawaii)

対象研究テーマ：Effects of seamount subduction on the northern Hikurangi margin -- subduction erosion or accretion?

### 日本地質学会 H.E.ナウマン賞

受賞者：岡本 敦 会員 (東北大学大学院環境科学研究科)

対象研究テーマ：岩石と流体の反応を読み解く：「かたち」と「うごき」

### 日本地質学会小澤儀明賞

受賞者：羽田裕貴 会員 (産業技術総合研究所地質調査総合センター)

対象研究テーマ：鮮新世～更新世の古海洋・古地磁気復元：ハイレゾ分析 から見える北西太平洋の千年スケール変動

### 日本地質学会柵山雅則賞

受賞者：奥田花也 会員 (海洋研究開発機構高知コア研究所)

対象研究テーマ：地震発生メカニズムの解明にむけた沈み込み帯を構成する物質の摩擦特性

## 3) 行事のご案内

(1) シンポジウム：能登半島地震とそれによる自然災害の地球科学的理解を目指して

日時： 9月8日(日) 8:45~12:00

会場： 口頭第1会場(基盤教育1号館112210教室)

世話人：坂口有人\* (山口大, 担当執行理事; arito@yamaguchi-u.ac.jp), 山口飛鳥 (東京大大気海洋研, 担当執行理事)

内容：日本地質学会は令和6年能登半島地震とそれによって発生した自然災害を鑑みてシンポジウムを開催いたします。日本海の形成から現在に至るまでの地質学的背景を土台として、特に今回の地震と自然災害に関する構造探査、海洋地質、測地、構造地質、変動地形、地盤災害など多角的な視点から、この地震と災害の地球科学的理解を目指します。各研究分野を代表する次の皆様の講演を予定しております。

講演予定：

岡村行信 (産業技術総合研究所地質調査総合センター)：

能登半島周辺海域の地質構造と活断層

西村卓也 (京都大学防災研究所)：

2020-2024年の能登半島地震活動に伴う地殻変動

遠田晋次 (東北大学災害科学国際研究所)：

2024年能登半島地震のオフフォルト余震活動と周辺活断層への影響

石山達也 (東京大学地震研究所)：

日本海東部の活構造・地殻構造から検討した能登半島周辺の海底活断層の構造  
穴倉正展（産業技術総合研究所地質調査総合センター）：

沿岸の隆起痕跡に基づく能登半島地震の履歴

卜部厚志（新潟大学災害・復興研究所）：

2024年能登半島地震による新潟市での液状化被害

## （2）市民講演会 「樹氷と出羽三山を知る」

日時： 9月8日（日）13:00～15:00（入場無料・事前申込不要.どなたでもご聴講いただけます）

会場： 山形テルサ 1F 大会議室

講演1：「樹氷（アイスモンスター）」から見る地球環境の変化

山形大学名誉教授：柳澤文孝

「樹氷（アイスモンスター）」というのは亜高山帯にあるアオモリトドマツの上で過冷却水滴と雪が合体して氷の塊となったものです。東北地方の山岳地帯が亜高山帯となったのは4500年位前ですが、「樹氷」ができるようになったのは樹種がアオモリトドマツとなった1000年位前からと推定されます。気象条件が限られることから「樹氷」は日本にしか存在しません。「樹氷」は1914年に山形師範学校の神山教諭らによる蔵王冬季初登頂で発見されました。1935年頃には北海道から長野県まで日本各地で見つかりました。しかし、温暖化に伴って、現在では八甲田・八幡平・森吉・蔵王・吾妻山のみとなってしまいました。気温の上昇が続くと今世紀末には「樹氷」はできなくなってしまいます。1990年代にはアジア大陸からの越境大気汚染の、2000年代にはPM2.5・シベリアの森林火災・沿海州の野焼・黄砂の影響を受けています。2010年代には蛾やキクイムシによる虫害が発生し、標高1600m以上のオオシラビソは立ち枯れた状態になっています。「樹氷」は地球環境の変化に敏感に反応します。蔵王の「樹氷」を後世に受け継いでいけるのか、今が正念場です。

講演2：出羽三山信仰の背景としての自然景観（

山形大学名誉教授，現（公財）深田地質研究所：八木浩司

雄大で荒々しい自然景観を呈する山岳には神霊が宿り、その怒りが地震・火山活動として現れているものと古の人々は捉えてきました。一方で豊穡の恵みをもたらす山岳に人々は憧憬・感謝の念をも抱き続けてきました。このような原初的の山岳信仰は、古代末以降密教と結びつき修験道として発展し、出羽三山（月山・羽黒山・湯殿山）は、東北日本における修験道の拠点として関東一円にも信仰圏を広げてきました。しかし、羽黒修験成立の背景は、単に宗教史のみで語られるべきものではありません。それには、中新世以降この地域で続いた地殻変動、火山活動、巨大山体崩壊や地すべり、さらに最終氷期以降の気候環境下で成立した植生景観などの自然環境が

大きく関わってきたことを紹介します。

### (3) 地質情報展 2024 やまがたー山と盆地をつくる大地のヒミツー

山形を象徴する山と盆地。それらはどんな地質で構成されているのか、またそれらの形成に火山や地震の活動がどのように関係するのか、さらにそこからどんな資源が生み出されるのか、わかりやすく展示・解説する特別展です。体験学習コーナーでの実験・実演や専門家による講演会も予定されています。山形の地質について研究者とともに楽しみながら学べる3日間です。

日程：2024年9月6日（金）～8日（日）

9月6日（金）9:30～17:00※

9月7日（土）9:30～17:00

9月8日（日）9:30～16:00

（ただし6、7日の入場は16:30まで、8日の入場は15:30まで※一部、一般向けには閉鎖しているコーナーがあります

会場：山形テルサ・アプローズ（山形市双葉町1丁目2-3）[入場無料]

主催：産業技術総合研究所 地質調査総合センター・東北センター・福島再生可能エネルギー研究所，一般社団法人日本地質学会

共催：鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会

後援：山形県立博物館，山形市教育委員会，日本ジオパークネットワーク，東北地質調査業協会，NHK山形放送局，山形新聞・山形放送，エフエム山形

協力：リトルリバーリサーチ&デザインジャパン

展示内容：山形の地史・地質，火山，地震・活断層等，地下水・地中熱の利用，鉱物資源・温泉・油田と微生物，地球化学図の各種解説パネル展示，各種体験コーナー（化石レプリカ作り，石割り体験，地盤の揺れ実験，地盤の液状化実験，鳴り砂，水路堆積実験，火山噴火実験，ロックバランシング，塗り絵）※一部，時間帯により閉鎖するコーナーもあります。

講演会：7日（土）14:00～16:00 1階大会議室 [事前申込不要]「山形の火山・地震・地下水」 講師：及川輝樹，吾妻 崇，内田洋平（産総研地質調査総合センター）

地質学会コーナー：第15回惑星地球フォトコンテスト入選作品等の展示

### (4) 第22回日本地質学会ジュニアセッション

日本地質学会地学教育委員会では，地学普及行事の一環として，地学教育の普及と振興を図ることを目的として，学校における地学研究を紹介する発表会をおこなっています。山形大会でも，小・中・高等学校の地学クラブの活動，および授業の中で児童・

生徒が行った研究の発表を予定しています。昨年に引きつづき、学術大会セッションと同様の対面でのポスター発表となります。

1) 日時：2024年9月8日（日）コアタイム 13:30-15:00

2) 山形大会ポスター会場（基盤教育3号館1-2階）

3) 参加校（11校21講演を予定、順不同）

- ・ 兵庫県立姫路東高等学校 科学部地学系研究部マグマ班
- ・ 愛媛大学附属高等学校
- ・ 宮城県仙台第三高等学校
- ・ 熊本県立宇土高等学校
- ・ 山形県立山形南高等学校
- ・ 市川学園市川高等学校
- ・ 鹿児島県立国分高等学校サイエンス部地学班
- ・ 新潟大学附属長岡中学校/新潟大学理学部科学人材育成事業
- ・ 中央大学附属高等学校
- ・ 名古屋高等学校・名古屋中学校
- ・ 國學院大學栃木高等学校

#### **（5）学生のための地質系業界説明会～その業界の仕事を知るためのサポートサービス～**

日本地質学会地質技術者教育委員会では、学生会員が将来就職する可能性のある地質・資源・建設分野に関わる地質系企業・団体との対面説明会を企画・開催し、学生会員が地質系業界を研究するサポートサービスを展開します。

開催日時：2024年9月9日（月）12:00～17:00（予定）

開催場所：山形大学小白川キャンパス（山形市小白川町1丁目4-12） ※基盤教育  
1；123・135・136教室で開催予定

##### 1. 対面説明会

参加費：無料（会員・非会員問わず）

参加企業・団体数：35社

参加方法：事前予約を優先しますが、当日来場の参加も受け付けます。

訪問時間：1ブース当たり30分程度、最大10社程度の訪問が可能です。

##### 2. オンライン説明会

開催日時：2024年9月13日（金）13:00～17:00（予定）

開催方法：Zoomを用いたオンライン方式

参加費：無料（会員・非会員問わず）

参加企業・団体数：38社

参加方法：事前予約を優先しますが、当日来場の参加も受け付けます。

#### (6) 山形城と石材見学会

日時：2024年9月7日(土) 13:00~15:30 ※小雨決行

対象：会員・一般市民

主な見学先：霞城公園，山形城本丸・二の丸，石垣石材

案内者：大友幸子(山形大学)・五十嵐貴久・齋藤 仁(山形市文化スポーツ部文化創造都市課文化財係)

当日 13:00 山形城東大手門(山形駅から約1km)集合。なお南門から山形テルサ(地質情報展会場)までは約500mです。

参加無料，要事前申込(定員30名，定員になり次第締切)。

#### 4) ハイライト講演

シンポジウム・セッションがより盛り上がることを期待して，また，会場で学術大会に不慣れな方(学生など)にわかりやすく情報を提供し，おもしろいサイエンスにひとつでも多く接してもらうことを目的に，「おもしろそう，注目すべき，ぜひ聞いてほしい」発表を世話人に選んでいただきました。詳細は別紙 資料2

#### 5) 新たに採択された地質遺産説明会

国際地質科学連合(IUGS)が8月29日に採択する，新たな地質遺産として日本の2箇所が含まれております。1箇所目は長崎県雲仙・普賢岳の平成新山溶岩ドーム，2箇所目は鹿児島県の喜界島です。今回，日本の2カ所が選ばれたことは非常に名誉なことです。詳細な説明会を下記要領で行います。

「新たに採択された地質遺産説明会」

場所：山形大学 日本地質学会会場(山形県山形市小白川町1丁目4-12)

日時：9月10日(火曜日) 12:30~13:30、口頭発表会場1(112教室)

申込方法：直接現地にお越しくください。記者である旨を受付に申し出てください。

連絡先：掛川武(kakegawa@tohoku.ac.jp)

#### 連絡先：

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 (社) 日本地質学会事務局

電話 03-5823-1150 ファックス 03-5823-1156

e-mail: main@geosociety.jp

URL <http://www.geosociety.jp>

広報担当理事：坂口有人(e-mail: arito@yamaguchi-u.ac.jp)

【一般社団法人日本地質学会の概要】

1893（明治26）に東京地質学会として創立され、1934（昭和9）に日本地質学会へと改称。2008（平成20）より一般社団法人日本地質学会となりました。本会には、研究者、学校教員、地質技術者、学生、地質愛好者など約3,100名が所属し、この分野を包括し、日本の地球諸科学関連学協会の中で最大規模の学会です。学問の振興と社会の発展に寄与・貢献することを目的として、学術誌「地質学雑誌」と欧文国際誌「Island Arc」の刊行、学術大会の開催、そのほか様々な普及教育活動を全国で行っています。

【学術大会】

毎年秋に開催される研究学術成果講演会であり、開催地を毎年移しつつ全国各地で行われ、例年約600件の講演を含めて約1,000名弱が参加します。また、小学、中学、高校生の研究発表会である「ジュニアセッション」も開催されます。同時に、会員向けおよび一般向けに開催地周辺の地質を見学する巡検（見学旅行）も行われます。独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センターと共催で、地質情報展や普及講演会等も大会に合わせて開催しています。これほどの規模で教育普及イベントを同時開催し、それを全国各地で実施している地学系の学会は他に類を見ません。

【地質情報展】

1997年より毎年、学術大会に合わせて開催されています。地質のトピックや開催都道府県の地質に関するパネル・標本展示のほか、地学に関するいろいろな実験や観察の体験コーナー、市民向けの講演会が用意されます。各展示コーナーでは研究者が解説を行い、見学者は研究者に直接いろいろな質問をすることができます。例年、会期中に多くの市民の皆様に来場頂いております。